

## 「丹波篠山桜ビジョン」全体構成(骨子案)

令和6年5月13日時点のイメージ

## 1 丹波篠山のサクラ

## (1) 市内のサクラの状況

丹波篠山市内には、令和5年に自治会等を対象にした調査では、約1万本のサクラがあることがわかりました。市内にあるサクラの種類や名所など、状況は次のとおりです。

## ・ 歴史

サクラは、日本には、江戸時代までに栽培品種を含め300種を超える種類が存在していたといわれ、現在では600種を超えていると言われていています。日本を含めた北半球の温帯地域に広く見られ、わが国では特に平安時代から好まれていました。盛んに品種改良が行われ、花見や入学・卒業シーズンの花木として親しまれてきました。近年では、世界でも「sakura」と呼ばれるようになり、日本を象徴する花となっています。

## ・ 分布、種類

サクラの種類は、大きく分けて7つに大別されています。

※丹波篠山ロマン街道(桜)より抜粋

## ・ 名所

※お花見マップなどから抜粋

## (2) 課題

春が来ればサクラは自然に咲くもの、と思いがちですが、サクラが元気に咲き続けるには、一定のクリアしないといけない課題があります。

丹波篠山市におけるサクラに関する課題は、次のとおり挙げることができます。

- ・ 密植

住民の手によって河川敷等に植えられたサクラの種類は、多くがソメイヨシノという現状ですが、ソメイヨシノは年数とともに、かなりの大木に成長し、枝も横に広がります。ソメイヨシノの自然な成長には、一般的に10程度の間隔で植樹することが良いとされていますが、5m間隔程度で植えられている所もあり、木の生育につれてお互いが日照等に対して障害となり、生育が妨げられている木が多くみられます。

植える時点では、若木の状態ですので大木になった姿を想定して植えることが必要です。また、すでに狭い間隔で植えられている場所については、木同士の間隔を広げるために、伐採(間引き)することも検討が必要です。

- ・ 大木化・老化

密植とも関わりますが、成長が進んだサクラの木は、品種によっては、かなりの大木になります。ソメイヨシノなど一部の品種のサクラは、人の手による手入れが必要ですが、大きく、高く成長した木の上部には梯子をかけても届かず、作業をするには高所作業が必要になるなど、慣れていない人には困難な作業となってしまいます。そうならないためにも、これからサクラを植える際には、高木にならない品種を選ぶことも大切なポイントです。

また、植えてから数十年経った木は、老化しています。人の手によって適切な手入れがされている木であれば、年数に関わらず、元気に花を咲かせてくれますが、手入れがなされていない木については、だんだん弱ってきています。弱った木については、個体の程度にもよりますが、更新をする必要があります。

- ・ 病気(てんぐ巢病など)、害虫、着生植物(コケ・ツタなど)

サクラの共通的な欠点として、大気汚染などの環境悪化に弱いことや、病害虫の被害を受けやすいことなどがあります。ソメイヨシノなどは特に免疫力が弱く、てんぐ巢病やきのこの寄生などの菌の繁殖によって病気にかかりやすい傾向があります。

陽当たりが悪く、湿気が多いところなどでは、コケ(地衣類など)が表皮についている木が見られます。少しであれば問題ありませんが、びっしりと蔓延った木はやがて呼吸ができなくなり、樹勢に影響が現れます。また、木の周りの雑草などが除去されていない場所では、ツタが絡まり、見た目も悪く、成長とともに締め付けられて、弱る原因にもなります。

- ・ 管理者不明

私有地に植えられている木については、はっきりとした所有者、管理者がいますが、道路敷や河川敷など公的な場所では、植えられてから年数が経っているサクラの中には管理者が明確になっていないものがあります。手入れが必要な木については、管理者が注意して見守ることが必要です。

- ・ 手入れできる人材の不足

「桜切るバカ、梅切らぬバカ」という言葉がありますが、これは絶対にサクラの枝は切つてはいけない、ということではありません。適切な切り方をしないと枯れたり、弱ったりするおそれがある、という意味で言われています。サクラの枝を切る際には、後で傷が治りやすいように正しい切り方をする必要があります。一般的には、そういった知識を知る人は少なく、正しい手入れができる人材が不足している現状で、人材育成が急務です。

- ・ 財源不足

丹波篠山市には、約1万ほんのサクラがあります。品種は様々で、病害虫に強い種類もあれば、病気にかかりやすい種類もあります。市内で最も多く植えられているサクラはソメイヨシノですが、ソメイヨシノは病気に弱い品種で、前述のてんぐ巢病が有名です。木の低い位置に罹患した枝があれば、正しい知識さえあれば、比較的容易に切つて駆除することができますが、高い位置にあれば、高所作業での作業が強いられるなど、経費が必要になってきます。非常に多い本数のサクラを1本1本適切な手入れをしていくことは、多くの労力と経費がかかります。作業をする上で、その財源は課題となってきます。

## 2 基本構想

### (1) 基本理念

例) 「市民みんなで作るオンリーワンのサクラの里」

「サクラ」は丹波篠山市の市木です。

丹波篠山市には約1万本のサクラがあり、春になると地域住民や観光客のみなさんの目を楽しませています。市内のサクラの多くはソメイヨシノという品種ですが、ソメイヨシノは「てんぐ巣病」という伝染病に罹りやすく、放っておくと、病気が広がり枯れてしまう可能性があります。このように桜の木は定期的な手入れが必要であり、以前から、多くのみなさんの手で剪定や治療、防除作業などを行っていたでいます。

また、ソメイヨシノ以外にも、丹波篠山に以前から自生する山桜、早咲きのオカメ桜や遅咲きのカスミ桜など、個性豊かで、美しい花が咲く素晴らしいサクラはたくさんあります。これらのサクラにも目を向けてみると、丹波篠山の自然の多様性を感じることができます。

サクラは日本を代表する木であり、日本中で美しいサクラを愛でることができますが、丹波篠山市では、子どもからお年寄りまで市民みんなが、多様な種類のサクラを愛し、楽しみ、見守り続ける、オンリーワンのサクラの里をめざします。

### (2) 目指す将来像

例) ① 適地適桜のサクラが未来に継承されるまち

⇒多様な種類のサクラが地域で継承されているまちを目指します。

② サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きと過ごすまち

⇒サクラが地域活性化に活かされているまちを目指します。

③ サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち

⇒サクラを気にかけて、適切に管理する人がたくさんいるまちを目指します。

### 3 戦略

将来像実現に向けた取組

#### 目指す将来像①「適地適桜のサクラが未来に継承されるまち」

(取組方針①-1)適地適桜

- ・ 地域にあったサクラの植樹
- ・ 適切な植え方(土壌・間隔など)の実践
- ・ 必要に応じた更新(寿命サクラの処理、新しいサクラの植樹など)
- ・ 苗木の育成

(取組方針①-2)整備促進

- ・ 必要な手入れ(施肥・剪定・枯れ枝除去・病虫害対策など)の実施

#### 目指す将来像②「サクラを地域の活力とし、みんなが生き生きと過ごすまち」

(取組方針②-1)名所づくり

- ・ 名所づくり

(取組方針②-2)観光利用

- ・ 名所マップづくり
- ・ モデルコースの設定
- ・ 名所案内人の育成

(取組方針②-3)商品化

- ・ サクラを活かした商品の開発、販売

(取組方針②-4)地域活性化

- ・ 地域でのお花見会の実施促進

#### 目指す将来像③「サクラを見守る人材があふれ、活躍するまち」

(取組方針③-1)見守る人材の育成

- ・ 桜守、アドバイザーの養成

(取組方針③-2)見守る団体の支援

- ・ 自治会、事業所、桜協会などの団体の取組支援

(取組方針③-3)交流促進

- ・ 交流会の開催

(取組方針③-4)学ぶ機会の提供

- ・ セミナー、講演会、観察会の開催

(取組方針③-5)資金集め

- ・ クラウドファンディングの実施

### 4 重点地区・モデル地区の選定

例) 篠山城周辺

河川敷(篠山川畔、宮田川畔、武庫川畔・・・)